

爾德太子傳
二

~ 13
3381
5



門 13
3381
5

周芳州

景好寺

聖德太子傳卷九

四十歳

法皇御疏御製地界事

免田野御符之事

四十一歳

維摩經疏御製地界事

法皇御疏御製地界事

四十二歳

法皇御疏御製地界事

太子傳九

大正八年
本大寺
贈

龍序岡山飢人仁御衣并御奇賜書

四十三歳

法華經疏始御製作之事

蘇我大臣病惱并戒賢論師之事

四十四歳

法苑珠林卷末惠意法師并合見治事



○太子年歲度本年春勝雙御此疏と等し法華を
意は作あり撰し之流す僕款漏明して一字をも
増減をば其五月及び推古天皇と大和國菟田野人
の書成せ給く多れ解兵と伏すは符とせせと
教諭んましくあり。ゆゑ太子は中と中と意思ゆり
百本乃珍よと思く此は御抄の五抄とは流す給
東面有少の邪見の人氏多して悪業はる業刀持公
凡抄類と合を因と地り徳の畜類と流すは流す
字方より責をこれにせと流すは流すは流すは流す
然い大い責をこれにせと流すは流すは流すは流す
新然る文り一もたうりくうまよ太子思徳をて風聲の
流るよ追まり教書の大臣と流すは流すは流すは流す

二二二

二



清は思ふくは之部乃大立... 夏五月百濟より化来... 白鹿の病あり。治良... 同卒れ夏乃比百濟... 八人... 彼... 此... 曲... 震... 舞... 奏...

百十... 妙音子... 舞の曲... 奏... 太子... 川満子... 太子...

とくまの山をめぐりてふ水田のききとるはちふと
 ありて万民用水のうけとてむとくまはとて
 らじ天を黙してとくまを猶も國を降るものとて
 水はよとらと知るといふはうありはなせし飢渴と
 のどしとて法をよとて民とてとてとてとて
 つ美池とてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ありてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 に池とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 史池和珥池聖塩池有系池小林池小知池大系池
 三井池小系池之池山田池燕間池二築池葛上池

恋海池鴨坂池石谷池石屋池也己上大和系又女系
 ケ系也次は山城國の中い山城池井右池小階池滝地
 池幹道池也己上山後國中のち也河内系中一ゆ
 源田池百舌池也己上トめとて己上九ヶあるりま
 け大和河内山城系ホの三ヶ國は世もすの池とてとて
 終ひて境とてとてとてとてとてとてとてとてとて
 人民旱魃の時用水はとてとてとてとてとてとて
 とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ぶとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 人のあやれよ乃行事はとてとてとてとてとてとて
 けとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 て一切人氏百姓も安んじてとてとてとてとてとて

こちよ強ふか下りけりくゆのち物なきあり
 りしころせ終りあり。徳國の郡しふたあり念を
 けりり東穀と換てしめ終りて夏れ天よ蓄り此
 民百姓めはこりくるをあることしどありけり。推古
 天皇の治世也三十余年の間にこの國のありけり
 海見仕終りて前後七ヶ年のあひひこの日本國の人
 民百姓は少年貢納免ありたれ八國ゆる民衆
 のしはつと。震と大系皇帝は改ふきあり。貞
 観政要ふんしつらに。山城よ大なる溝とけりせ終りて
 この時より後後の南なる大井川これあり日本に
 井開せりありつらに。つらに。つらに。つらに。
 同年の冬十月ふ沙陵と築しめ終りありたまは

月巖をのふ河内國石川郡東条科長の宮に
 沙りありてを海くは墓はけりとも。つらに。つらに。つらに。
 といしつ沙墓者の大工後守とあり。つらに。つらに。つらに。
 墓とむにげせのきえんつあんと。つらに。つらに。つらに。
 日しつと墓とけりしつらに。つらに。つらに。つらに。
 に切法お意の異地とあり。つらに。つらに。つらに。
 けりしつらに。つらに。つらに。つらに。
 合佛。迦葉佛。釋迦文佛七佛あり。つらに。つらに。つらに。
 大系相懸して。つらに。つらに。つらに。
 沙陵はけりた。つらに。つらに。つらに。
 ひたれ。つらに。つらに。つらに。

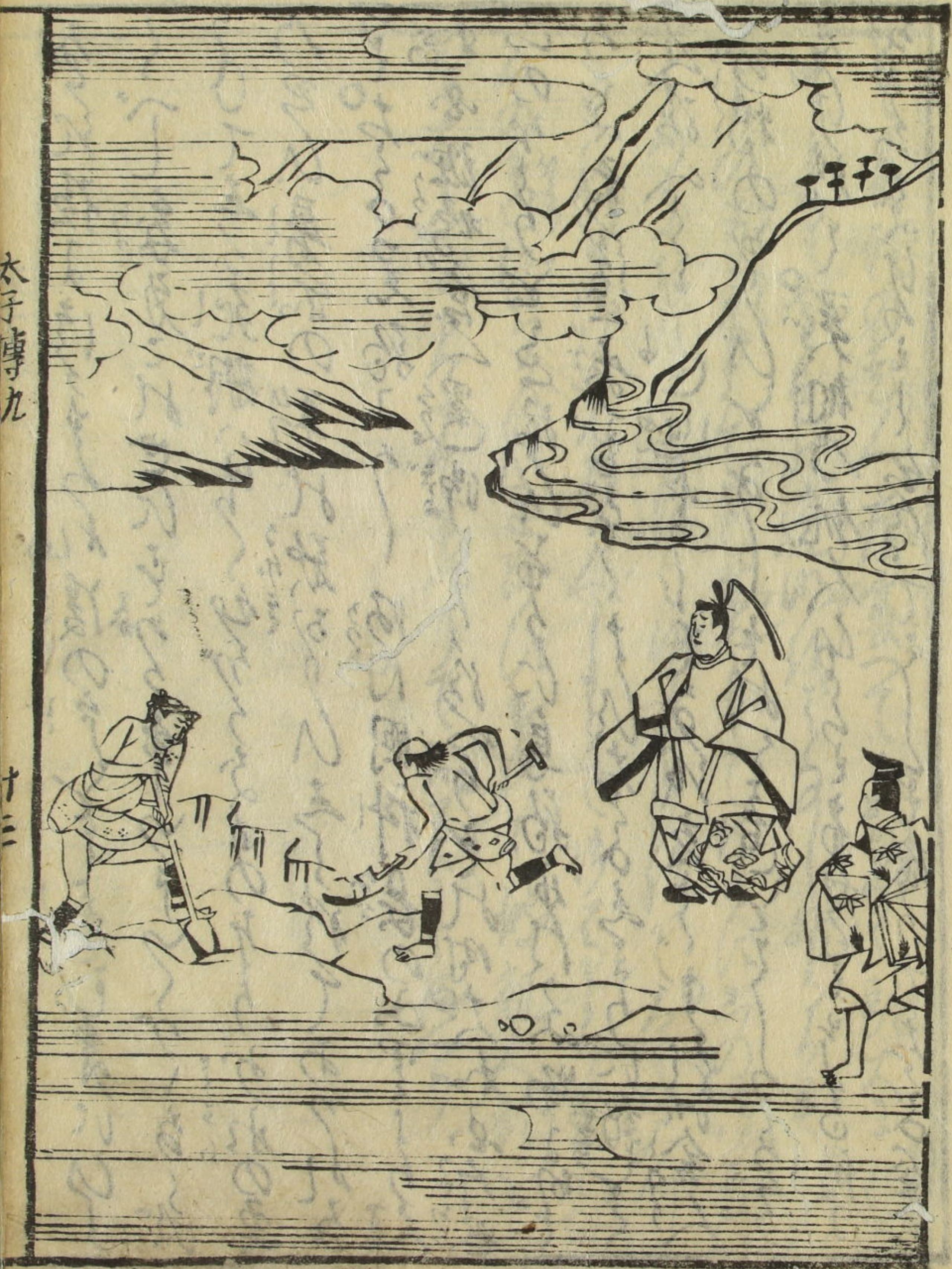
大正館

上

ト換^カ君^ミら^らく^くい^いひ^ひあ^あく^くと^と大^オ聖^シ檀^タ化^カめ^めて^て長^チ生^シ
 不^フ動^ドの^ノ淨^ジ身^シあ^あく^くま^まり^りヤ^ヤハ^ハヤ^ヤあ^ある^るま^まと^とく^くり^り
 け^けり^りに^に淨^ジ一^{イツ}那^ナの^ノ終^{シュウ}と^とい^い初^{ハツ}と^と先^{セン}雪^{セツ}の^ノ心^{シン}と^とい^い
 づ^づく^くに^にこの^ノ陵^{レイ}の^ノ系^{ケイ}と^とい^い去^ソの^ノ庭^{テイ}と^とい^いけ^けれ^れお^おは^はれ^れ
 づ^づじ^じの^ノい^いく^くお^お那^ナれ^れと^とい^いく^くり^りん^んじ^じの^ノす^すつ^つ
 り^りと^と慈^ジ歎^タの^ノ泪^{レイ}と^とい^いく^くい^いけ^けま^まは^はた^たの^ノ陵^{レイ}守^{シュ}と^と化^カ守^{シュ}
 して^{して}の^ノあ^あく^くり^りく^く九^ク必^{ヒツ}滅^{メツ}と^とい^いく^く常^{ジョウ}れ^れの^ノが^ガ終^{シュウ}と^とい^いく^く事^ジハ
 六^{ロク}返^{ヘン}四^シ生^{セイ}の^ノま^ま情^{ジョウ}と^とい^いく^くだ^だと^とい^いく^く悲^ヒ情^{ジョウ}を^をお^おも^もせ^せは^は
 異^イ滅^{メツ}の^ノ口^ク相^{ソウ}と^とい^いく^く常^{ジョウ}信^{シン}た^たの^ノま^まと^とい^いく^く事^ジハ
 此^{コノ}花^{ハナ}ハ^ハ凡^{ボウ}は^ハお^おも^もせ^せ志^シ必^{ヒツ}滅^{メツ}乃^ノと^とい^いく^くり^りと^とい^いく^く志^シあ^あは^はれ^れの^ノ月^{ツキ}
 と^とい^いく^くれ^れせ^せ志^シ必^{ヒツ}死^シの^ノ慈^ジと^とい^いく^くり^りと^とい^いく^く世^セ間^{カン}の^ノ體^{タイ}家^カ
 長^チ生^シみ^みか^かあ^あり^りて^てく^くれ^れと^とい^いく^くり^りと^とい^いく^くお^おの^ノ人^{ニン}は^ハ



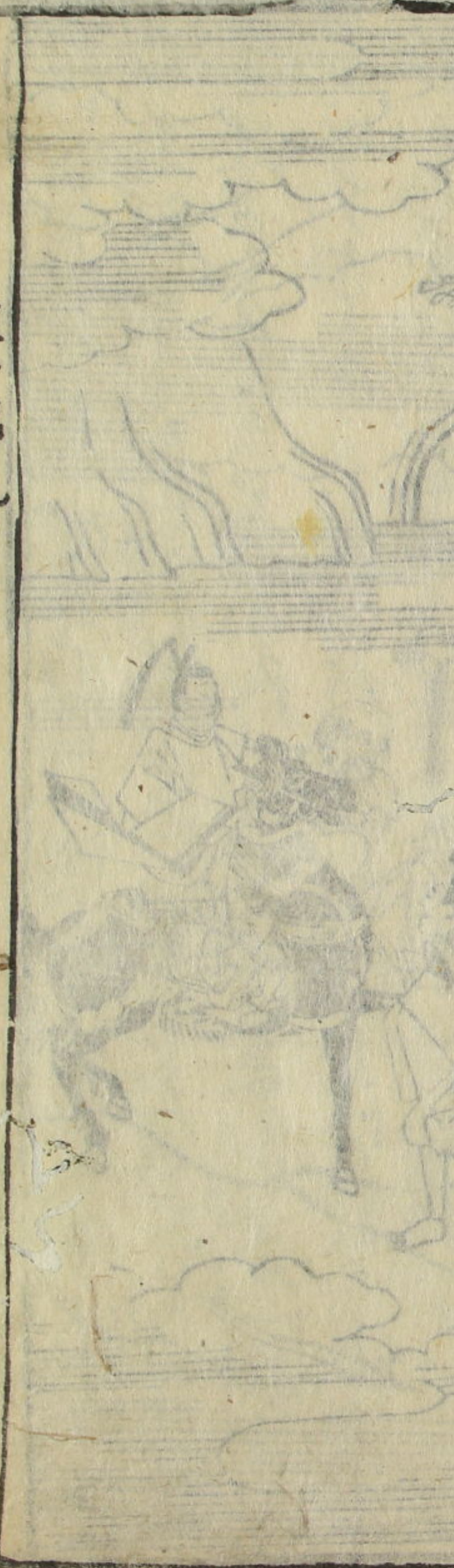
小あひしとやせはうさしひ死のうし老舎んらめ
 て雛のみあそびあがり一切せうらふせありあひ死しぬ
 せざらしうふ事あり城うらうらなれして墓と
 つまみくしてうれせ間ふはま後ハ男渡女渡とく
 南ふふ二あふつとせあろと男墓一あふんし墓
 のうらとまけくらのふたにけいぐらうし墓乃云
 墓とし方一町あたらにまあふ二三にそくはく
 びり彼方の南の陣と少あろくふらして墓のめ
 くらと大海よむくはらうべし葬火の時ハ行
 なはそのとらひさうくふめ後の内と墓を
 色より下宮もやをみまこしくを石とりつてさ
 こいつてふ墓屋の中やは較多の積とあらうべし



ぶれ扱ははきうらね。後のくしとて南じまいにし
 くべしあつこれせんにせり事しつぐくあふ
 りてまら死別はけくむかうまのりりか水の奥
 の思ひ居家の新れ款ありいふく終てありいな
 こと。あまの思約ありし。河内國科長の山里より大
 ね必班鳩宮へ還歸しり終りそれ時たね必片思
 のやうりとする終ひまうに鳥羽ゆけふ物よめど
 りらふ前後一歩もとくまはあまのまにに教し
 又終へくも遠巡やしてゐ紙をくまは終い合人
 家物のありいとしをそれとてさうさうらあがり
 及び終て。美相乃仇人いふらとあせらるる終る彼よ
 かゝらあけりとしを終てくしと終りてあまの思

飢人

と美相の老人瘦衰てくあつて歌する。眼の
 中らとと色れえぬ終らうし終らう美相あ
 けらのあまもどくも終て終らにらの終らあ
 どりらあまもどくも終て終らにらの終らあ
 らもれと終らあらうしと終らにらの終らあ
 くのあまにらうけさ終ひまれと終らにらの終らあ
 ぞあまのあまもどくも終て終らにらの終らあ



太子傳九



の能人。執地大聖文殊菩薩摩訶薩。少て中しく
けり。し。漸くのまに。おして。た。よ。と。日。本。化
等。れ。ま。め。よ。と。め。め。ひ。し。事。也。を。應。は。た
ふ。に。又。今。年。さ。だ。り。て。あ。れ。よ。わ。り。終。ひ。し
し。も。も。真。陰。佛。法。の。時。有。つ。ま。ご。到。来。せ。り。
て。一。法。と。び。め。め。ず。大。衆。の。機。よ。う。く。變。表。ら
る。ら。し。と。あ。り。し。終。つ。る。り。漸。く。山。は。對。お。れ。後
甲。子。二。年。と。る。て。二。五。れ。た。ま。ひ。片。墨。山。の。ま。り
て。し。ど。も。あ。り。し。終。つ。る。り。と。あ。り。し。よ。り。ひ。た
て。ま。り。り。較。十。元。れ。し。同。答。あ。り。て。赤。衣。の。よ。に
え。し。り。し。紫。の。沙。衣。と。め。表。を。應。に。あ。せ。た。て
ら。り。別。沙。海。壽。と。終。つ。る。り。

支那。照耶。片墨。山。迹。飯。飢。而。卧。其。後。人。可。怜。
禮。無。途。汝。成。介。末。耶。刺。竹。之。君。速。無。母。飯。飢。
而。其。旅。人。可。怜。の。旅。人。を。り。る。人。を。り。る。か
も。ん。と。無。化。聖。者。達。之。和。尚。たり。これ。沙。奇。也。終
は。終。と。も。あ。り。り。り。り。一。流。口。史。中。片。料。照。耶。と
と。又。又。字。の。八。度。去。と。ハ。科。國。と。も。也。而。城。傳。よ。も。し
ら。と。照。耶。と。る。達。之。乃。そ。れ。と。終。智。と。執。せ
せ。り。智。者。ら。り。く。無。明。と。て。り。は。表。に。照。耶。と。り。し
たり。一。切。ま。り。ひ。の。を。情。と。あ。り。ん。事。ハ。智。者
ま。り。し。て。い。ら。る。ふ。を。り。び。あ。り。と。り。て。達。之。を
智。れ。終。を。よ。い。ま。ひ。の。ん。所。具。是。せ。り。ゆ。り。也。片。墨
山。は。白。衣。れ。り。と。も。也。交。報。之。小。國。亦。耶。の。亦

如と付達之の竹林精舎にゆりあんとし路を
 とりて飯を飢とて達之職してとてにゆりあんと
 せり然ととりとるん路を也刺竹を釋法と
 してつらと竹をせ有の二ととるれより旅人
 といふ人しやと君とて路をひて生れ流
 橋の流せととれりあられひきせとるん路を
 次り。達之也あめ
 ○無慮之飯小川絶老古魯我王之師名者忘目
 怒ふがとととるん路をのせに飢ととるん路を
 飯小川の流せととれりあられひきせとるん路を
 達之をよととりて飢ととるん路をひて生れ流
 鳥部松子の傳めとて意伽敷伽耶也ととるん路を
 不説思

量列境の意也。此は流精の意。然ふけり。と
 伽耶。城ふじととるん路を。伽耶。城ととるん路を。
 片らと佛乃をせとて。釈尊とて。又殊ととるん路を。此
 交と結りんととるん路を。又殊ととるん路を。此
 水は。くいにりて。後ととるん路を。又殊ととるん路を。此
 終めとて。免母れを。達之乃。智祇のうに。釈尊ととるん路を。
 の意。想と合して。震旦百濟。あつと。日本。片域
 せり。わとれぬ。に。梁ととるん路を。又。法隆寺。寺。悪の。は。傳
 せり。料。照。耶。と。と。結。る。淨。入。滅。の。櫻。尸。那。城。あ。て
 親。善。勢。至。善。賢。大。珠。赤。の。意。想。深。色。れ。大。聖。より
 あ。ひ。と。と。ひ。と。来。然。よ。惡。せ。れ。能。生。と。計。量。し。佛

法弘の如くはとちがらと砂のしをれりんらんよふ
 てかた片墨乃邪見放逸を佛せ東の境あり
 化交方便の事とりり福智資糧をえして
 砂の一粒化の強人なり次社無とい釋尊の慈父
 よ別ふとせし内村は外集をてしうのゆへり
 汝成今同とい刺竹之鬼速無母とら免母法
 深山竹林寺と松河の棧乃飯ようをてるし
 つるしうまのあり次ふ飯小川とら流浪の形
 とらに河のぬれとく小者よふりて人中天上は
 の水と得て小罪乃諸を我鬼畜せ此小河とく
 くれはるの細ありそれ法法を一分の交作をん
 幸とて飲者ともと意得たると文殊とてあふし

神(た)連(れん)ん(の)り(其)依(よ)り(て)人(ら)く(は)彼(か)れ(の)み(の)り(と
 と)と(ん)に(ん)本(ほん)竟(けい)つ(よ)物(ぶつ)と(は)遍(へん)照(しょう)念(ねん)剛(ごう)と(も)あ(あ)る(る)神(かみ)
 意(い)も(も)飲(の)者(しや)と(な)る(る)と(も)と(も)た(た)へ(し)法(ほ)よ(よ)二(に)法(ほ)
 妙(めう)淨(じやう)穢(たい)り(し)者(しや)よ(よ)ま(ま)る(る)事(こと)及(及び)毒(どく)乃(の)衆(しゆ)三(さん)東(とう)
 六(む)世(せ)現(げん)起(き)し(し)無(む)よ(よ)属(ぞく)と(は)神(かみ)と(は)地(ち)獄(ごく)傍(ぼう)生(じやう)人(にん)天(てん)國(こく)東(とう)
 皆(みな)を(を)も(も)と(と)れ(れ)て(て)空(くう)無(む)と(は)な(な)る(る)人(にん)し(し)と(と)人(にん)中(ちゆう)道(だう)と
 親(おん)と(ら)と(と)も(も)又(また)無(む)と(は)ん(ん)と(と)三(さん)帝(てい)一(いつ)帝(てい)也(や)三(さん)世(せ)一(いつ)思(し)
 魚(い)の(の)境(きやう)と(も)し(し)ら(ら)れ(れ)言(ごん)浩(ごう)の(の)と(と)う(う)ふ(ふ)に(に)あ(あ)る(る)以(い)鑽(せん)ハ(ハ)と
 く(く)巽(けん)作(さく)と(も)し(し)く(く)と(と)く(く)鑽(せん)格(かく)と(も)し(し)た(た)に(に)於(お)り(り)と
 お(お)の(の)こ(こ)と(と)を(を)ひ(ひ)て(て)仰(おほ)へ(へ)き(き)法(ほ)性(じやう)と(も)し(し)り(り)と(と)り(り)と(と)の(の)か
 と(と)あ(あ)る(る)い(い)し(し)ん(ん)と(と)あ(あ)に(に)達(たつ)ず(ず)と(も)地(ち)化(け)し(し)た(た)と(と)と(と)衆(しゆ)徒(と)
 ち(ち)り(り)と(と)の(の)ち(ち)と(と)人(にん)と(と)を(を)の(の)師(し)と(と)と(と)と(と)あ(あ)せ(せ)と(と)り(り)

うとけらるゝととほ物治ありしやうくれあうしあう
 波交のせし佛法弘通の事とせしやうと細子丸
 うとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう

三曲

のうとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう
 うとけあさうしあうとととにまうしあう

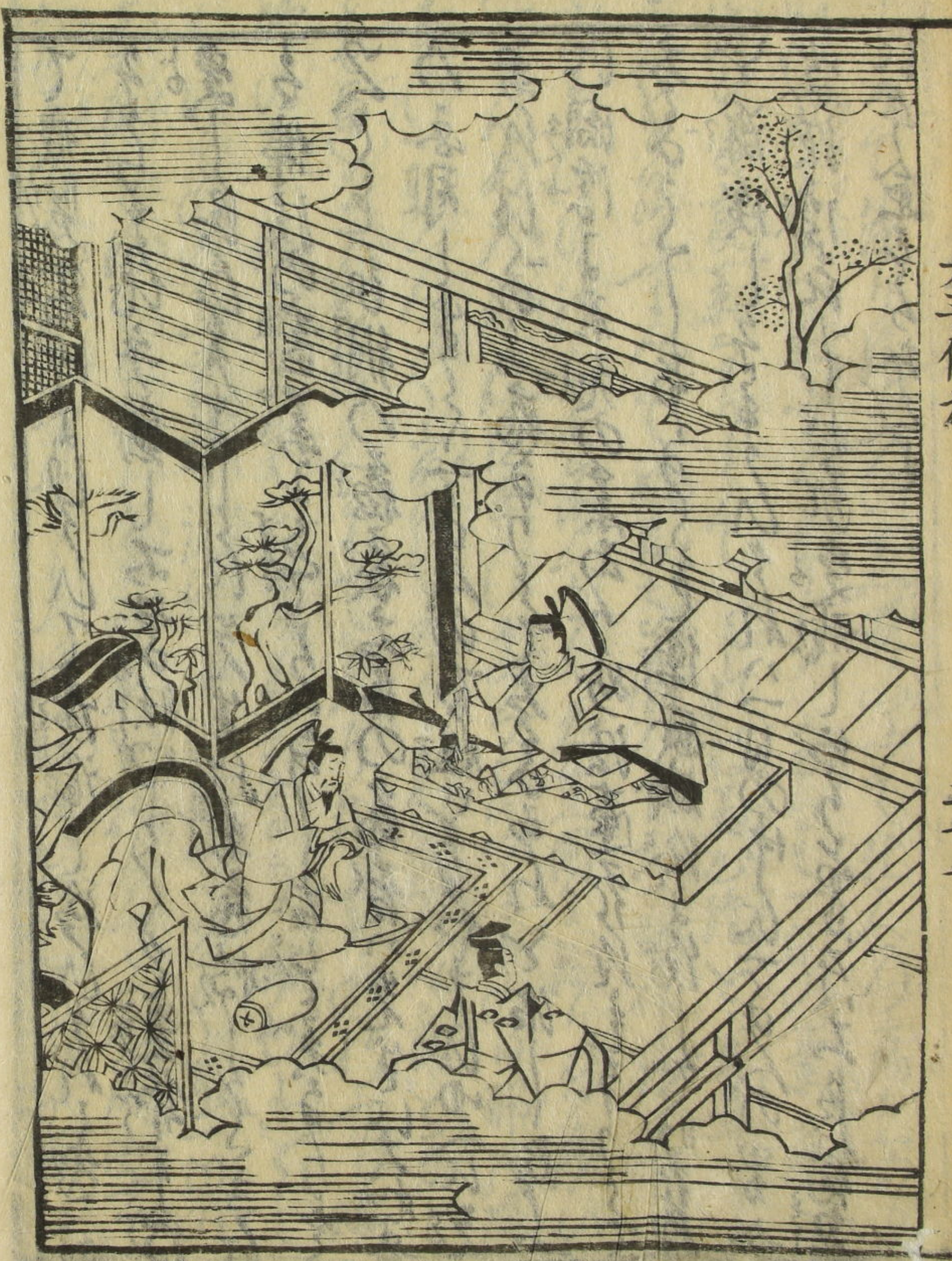
女子傳抄

法とを引くにあたり神の是れあれて病歎と行給
 かしむるなりゆりおとすれけいさの若子のく海りく
 びるあつて一切の神の心みお幸地乃仏法と
 けて三熱のうらうらひもあつれおまの惠命と
 うらうらひに給つりあつたる病のまをまれ病あり
 大長びくこの國乃とたりゆり時よ人の民と
 まうらひこれ者執じらうてし病とをせめ
 まやまひものたるとく熱熱熱の病を
 酬の妙業とらとわらはに活しうらうらひ
 法花經のた病即滅不をたるとまを
 ようりて法花とを海し大長びくはうら
 ちこころのうらうらひとをまらうらひ

した佛乃入しめ大長の病とを、平念せし
 して大和玉揚寺にゆりて法花經と漢漢と
 ちひなれを大和河内と本の隣國他國の人民百
 性男如女一とらうらひとをまらうらひ法花
 經のた病とを海し大長びくはうら
 ありて法成佛通の妙業とを令場の念とを
 卒展轉は法漢漢のともうらひとをまらうらひ
 とらと大長の功徳とを細しとをまらうらひ
 法のありいとを、法花經とをまらうらひ
 一人とをまらうらひとを、法花經とをまらうらひ
 して一日の中に一千の授戒とを、法花經とをまらうらひ
 大長びく海師の病者とを、法花經とをまらうらひ

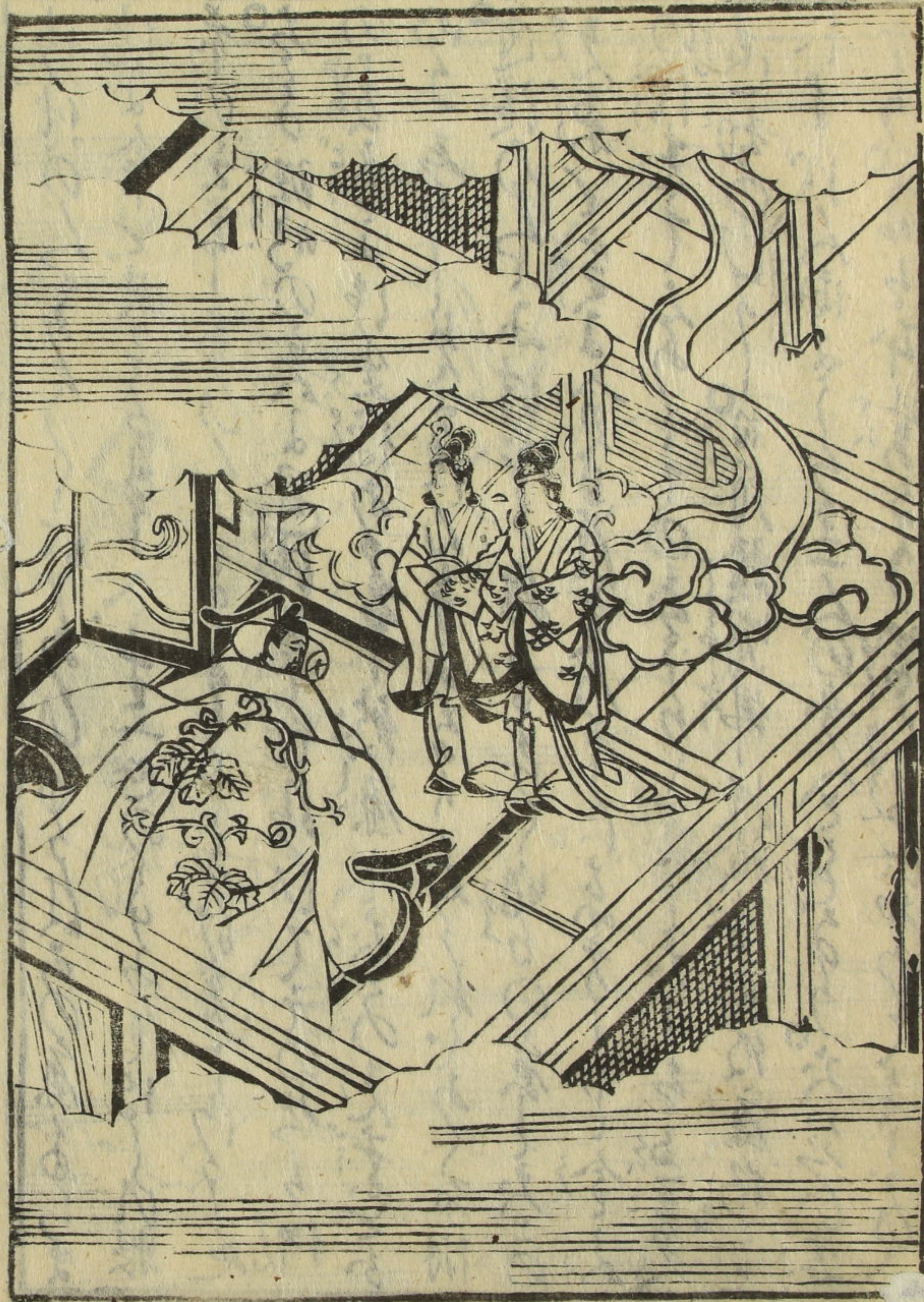
の那由陀寺に長劫飛賢海師十ヶ年此のひと
 高きと云ふと云くことしと云ふこといひて云の公に
 存望う法がももあつて必死定業かみえゆり
 心とにひめて二人の便と云ひのたぬ花焼者し西
 好まじい十方れ佛菩薩と母命しと云しつる
 ありに互中に二人の比丘僧あてつらく良きつる
 くはる修終の法と云ふと云ふし四年三月十八日
 尸那園と云ふと云禁じと云人來へし佛法と傳へく
 修終し終てと云へし終つるその時ふ互中に飛賢
 海師と云へてつらくと云へし終つる人とも傳へ
 へつるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる
 善善傳たり善いそと云くつるつるつるつるつるつる
 善善傳たり善いそと云くつるつるつるつるつるつる

補陀海世東のありし人無智せむ善善傳たり我々
 是於率天上南東守師法勤善善傳と云ふと云
 世有佛淨土此ありし今又六道終化の地善善
 薩下らと云へつるつるつるつるつるつるつるつる
 じとと云ふれ此病を業病ありと云生まの因乃
 終てして此の民と云やましその罪と云はく
 の事事と云ゆへは今も病と云く一切佛菩薩の
 妙と云ふはありと云ふと云へつるつるつるつるつる
 是と云熱病の候と云へつるつるつるつるつるつる
 何ふ所誓し終つてつるつるつるつるつるつるつる
 法天夜懸しと云禁じと云人とも善善傳と云ふと云
 終つてつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる



〇同年四月の比をよ長幸れまふらうと置御ありて
 ありに大お公信貴方かの根坂ありてちよ尺八と
 好ひまうに山神おまわらひにまらにちよの好ひまの
 一海とて舞うるまてゆりありてこのあひまを
 いまゆらと化し好ひまらにちよ年一尺八と
 てゆらと引とてしうとゆらとあひまを
 神とそれゆらとてまらとちよとありて
 柳と山神にまらとてゆらとてこのあひまを
 〇白天下を寺にいんしとて先ゆり〇徳莫とてま
 られかりてその時乃尺八と大お公信貴方とて
 られありてちよの守をと誅しゆり軍れまらとて
 天と寺ゆらとて衆の舞にはらとててわらふ指りら

太子傳し

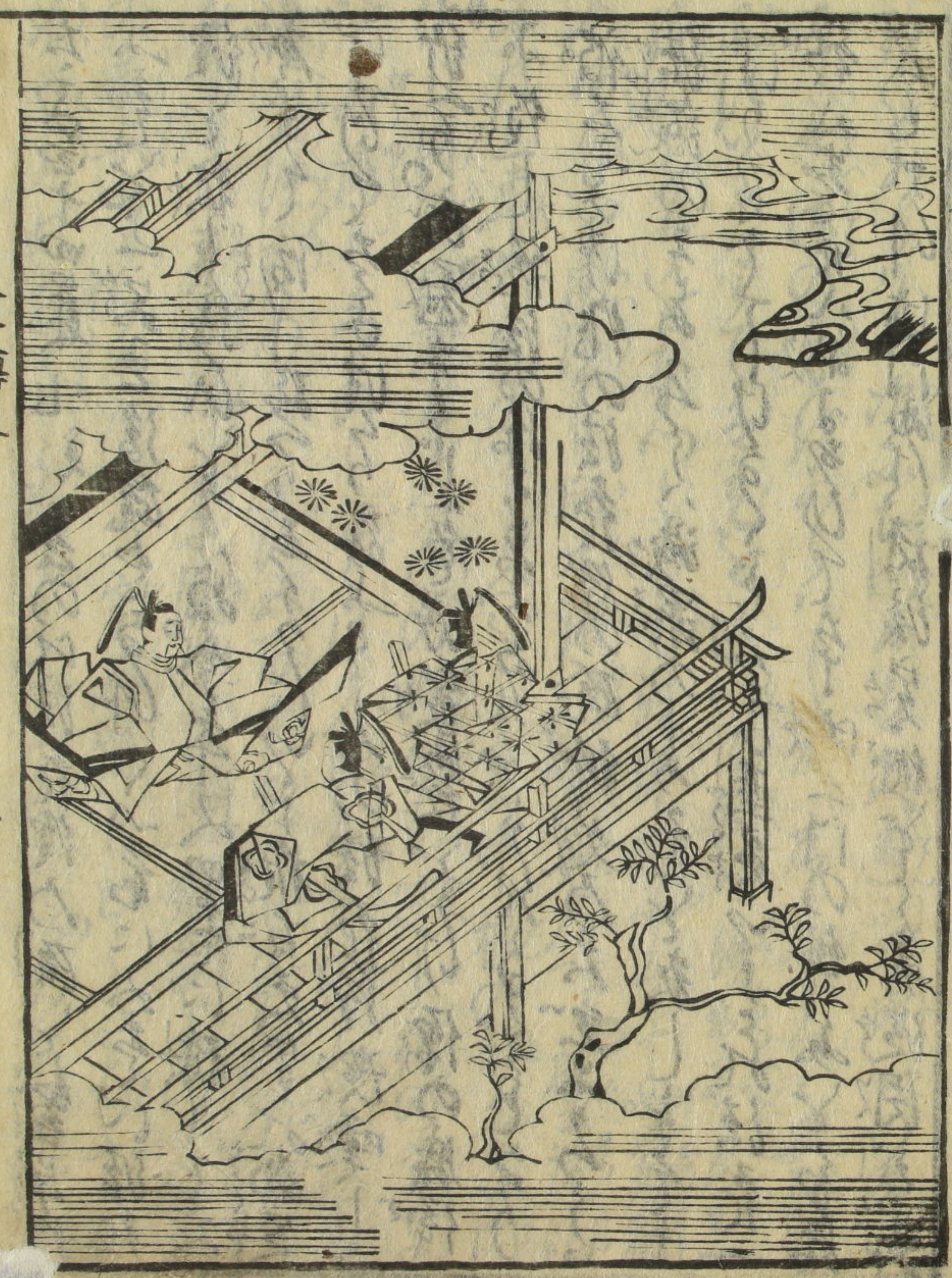


嫉妬れし心ゆへ大念と怨と怒ん老ゆりたけきあり
 依て二人去り畜せしけり骨と碎髓と吸苦痛二世
 小限は汝も九百九十九世とて今れは世ハ一子す小満の
 やと苦あり出さるや一切れ女人嫉妬の業果とて
 如斯を乞と忍び最乞と空下一念れ胎毒り依
 劫り吾根と焼刺那れ悪害ハ毎世に生れ苦報と
 招くつら能授を乞とて大子と由懐中りしあり
 ありひ書ひしりれ男子とせぬ是と年妻れ家ゆく
 世ら育れ奉妻継子の胎と折れぬその父乞をれ
 て突れ母り折く母乞と刃く胎毒乃胎胸と焦
 是のかまきし子と負く海に流し死て天石と所
 存しあ子れ是罪なりとて折れるまき報生し世に

大子傳ナ

三十一

あひさお夜おやうんとそ忽よ水よ入るく死すこそ忽
 念成就して九百九十九生とあるううう。大和必は
 念寺れ中り一乃伽藍と建立し終りそと施麻
 苑寺と名づるあふ伽藍修造乃聖二人此天女さ
 せうく口おとすもあふ伽藍建立の功法よ
 うく多生れ聖念と屋敷人きり中地り切利天
 り生る善業大乃伽藍徳生あそ新トが
 中天り生る深果れを新と告まらりのや有
 新に浄也吾ありと悟るく天女形と
 現下るととらて飛去りけ。月七月三日麻の
 惠慈は除こ下大徳とりく彼麻と大の
 ぬめり大業修造後り一息也命終り也

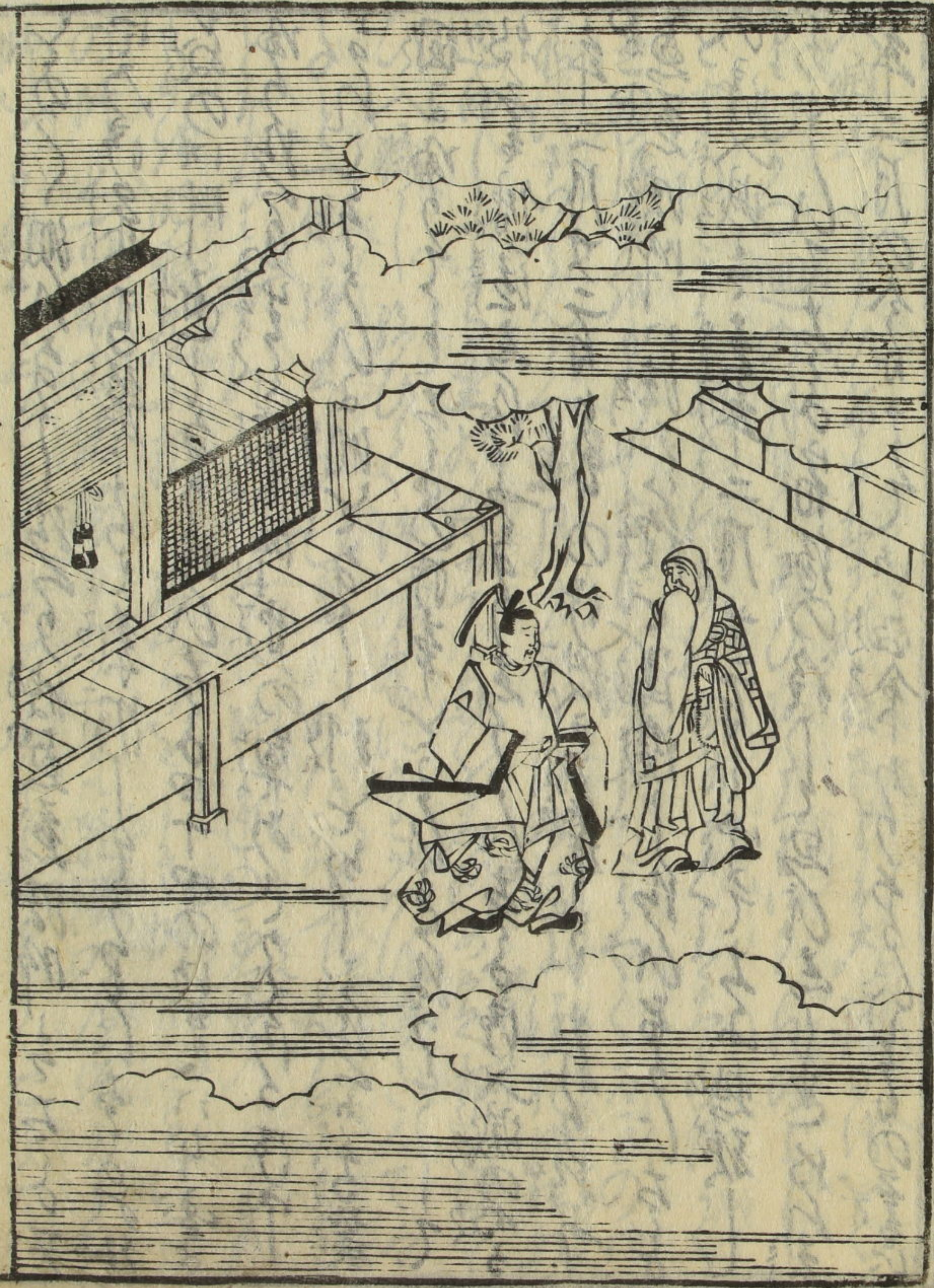


○太子十四歳し、まゝの法花經の疏して、
小乞と。上宮王後疏をうけ、
法花と釈し、
厚きて、
いひて、
新なり。衣冠をまじしを、
小作し、
被を子、
結繩の、
はりて、
初ハ、
こと、

おとあ、
本、
おに、
の、
の、
化、
と、
後、
系、
の、
垢、

太子傳し

いそやね年の思はよあひくともや一まのいそ
あつら一息多きとそふくつそ別とつりま
らん會いさくして別ちやと一人間の常候
いそらとちうあふい海あてのら又い乃時ふあひ
えそそつらう人きやとそふくつそ別とつりま
あまら。息多きとそふくつそ別とつりま
今中一せれらあにあらはととる里のい海と
るくそそあの方を地ふよあとも一夫ああつくた
ほつ總いあつら下のい海あははのむむらく
かさひそあまあはらうとと一併い海あはは
らう人しあははととととととととととととと
はあよあつらとととととととととととととと



教化の功徳を百劫のるちがと修むるに
 といれあり一字転字の大悪は子佛と供養を
 修むる百劫をたんとする一人をともうけらる
 りんやあんなんや一字をばかやいりんや
 百字とや。木を三木の秋よりく又母を
 んど何ふうめて師匠の教はありん師
 せしむるその父母の悪徳とよんや
 師の教を一向の妙法を信置た
 一仏の名をい徳知を
 しく三世諸佛のみか師匠の教に
 修むるに就るは實冠は淨陀と
 近の悪と就く。勢至は實觀ふ
 骨と入て永

知る父母の悪と觀あるの
 善知識を大用處所以化
 善くして師僧知識の
 色は善くして師僧の
 善くして師僧の

太子傳九

三十七

聖德太子傳卷十

四十五歲

太秦廣隆寺御守靈驗之事

四十六歲

勝鬘經講讀之事

四十七歲

河内國御陵沙汰之事

四十八歲

法小伽藍田園所寄附之事

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "聖德太子傳" and "卷十".

太秦廣隆寺に沙弥塔心相建給事
後近江國蒲生河人莫出事

四十九歳

於班鳩宮桃花宴之事

五十歳

御入滅并沙弥送之事

馬駒并調子丸之变

太子四十五歳 丙子去正月乃沙弥入滅之事
うゝ美路ひかれは一朝の空世也此沙弥是也
と終ると形見に末代乃る生れあえんとて四十六歳
善提寺法隆寺廣隆寺等の法に切さぬ
法の中にも大和國法隆寺の一朝の空世也
免ん生れのいふ是塵尾香呂赤梅松沙彌是乃
七回沙彌虎珀の念珠等もて十六歳の沙弥
とありしとせ終ひて彼法隆寺ありあど終つて
この中に法花統行孫等沙弥自覺の義疏等
中にもあまの皮紙とて終つてこれ梵網經の
題よとのいふにあが終つてこれとて
沙弥をいふとて終つて七生れ沙弥等持佛

六上專十

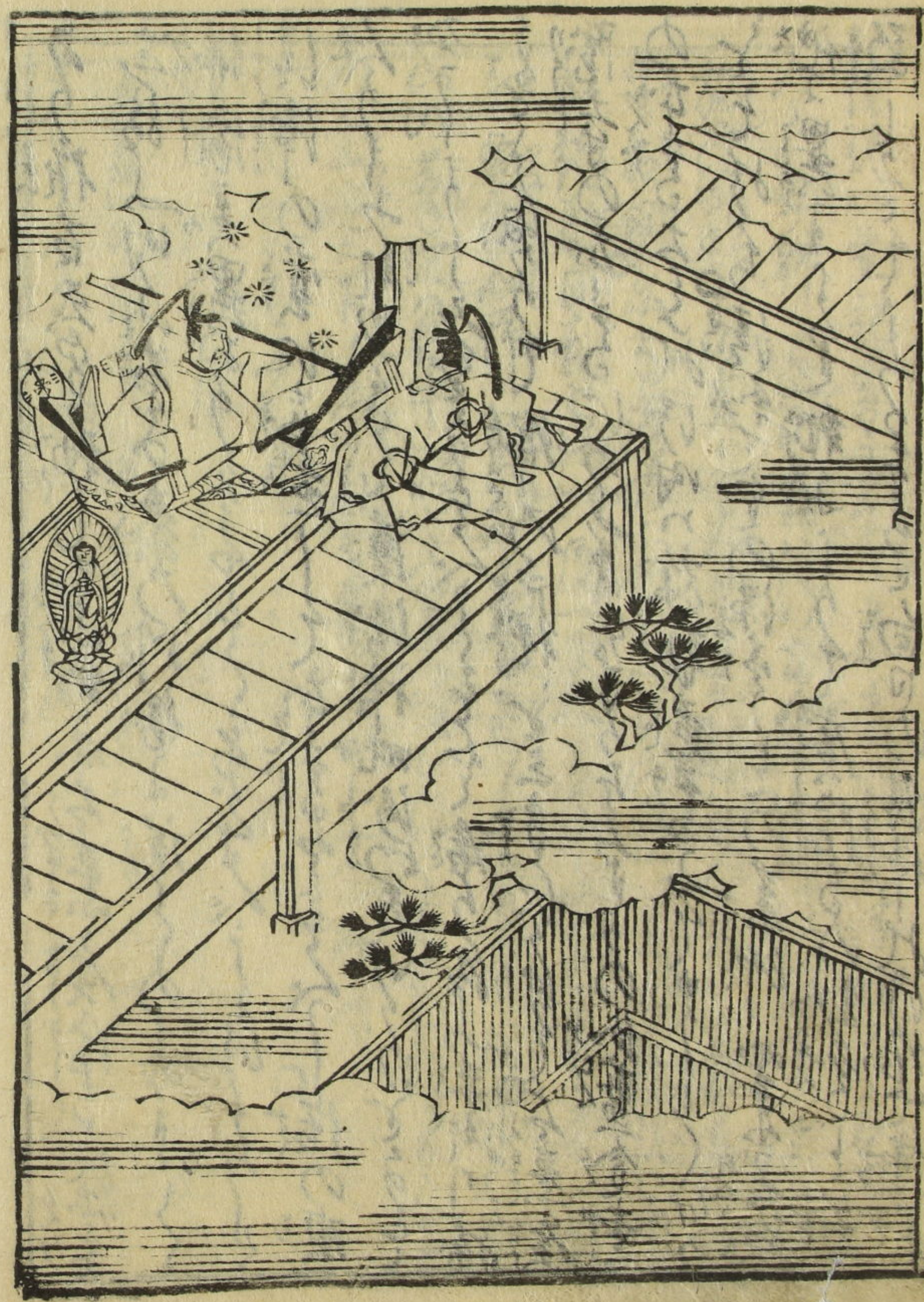
二

の親實をば板かほりてあさうをたてまつり申すも
 ちよは慈愍のつらと深きあましき心いりれは
 細路の御意よあつりし程なりと云はれ御縁の
 念生こそたまはけお生にじまればまことまじ
 ことばをさうとてとんてまじりし御縁をさう
 どりらとされたまは入滅心後の念生ゆとて
 一しとまじりし御縁をさうとてまじりし御縁
 の度ともあまて梵網律下二卷の御意よ
 つまじりし御縁のつらと深きあましき心
 くれとまのあつりし御縁しとてまじりし御縁
 念生はくこたれまはるこたれまはるこたれ
 後まじりし御縁のつらと深きあましき心

の親いふれあまに後のくをんとおしとて
 まじりし御縁のつらと深きあましき心
 とまりたまの慈愍のつらと深きあましき心
 のりし御縁のつらと深きあましき心
 お信願とてし御縁のつらと深きあましき心
 お月三首推古天皇の御縁のつらと深きあましき心
 おのりし御縁のつらと深きあましき心
 遠例して御縁のつらと深きあましき心
 くらをたまはけお生にじまればまことまじ
 一しとまじりし御縁のつらと深きあましき心
 まじりし御縁のつらと深きあましき心
 志立して御縁のつらと深きあましき心

ありて浮憊をもちて地を平愈する。移りたるは地
 に大伽藍とて移りつりまれば大伽藍長林寺とれ也
 世尊の人毛と元有寺とつり大和國の佛所結怨
 の由須那に執して正教をた像と造立し安坐
 して坐すり移りつり日牟末教を有縁乃國
 あり一切の神呪をた地を教を少て中しませ
 了。教所の佛法は大橋梁とありり移りたるは
 白山権現ハ十一所教をもちり熊野十二所権現を
 乃移りたるは神和をもちり移りたるは十一所鬼の交
 ハ此急輪子守宮に聖教を古野乃三十八所の地
 一と教を少て中しして此紀伊島大野四所の神
 の中しして三乃宮ハの年教をもちり此和國移りたる





所の中一善名梅古律とせ業やうたてまつるるうけ
 中もくくめを形法とすあふましくもく成法和夫
 曾淨愍の時廣隆寺の僧乃昌僧於の勅して法行
 後あくとせしに道昌奏してつらく於徳寺の業
 所の像美強あらとりの像と高寺に知くそまつる
 うを美といのりそまつる人しやありけ終ん則及
 らふ勅して所の業所業と高寺に安を並でし
 先一七日のあひと淨修法とともあられあれは愍
 くらも浄の平後やうりくけるも同法を大井川あ
 少れて風城よりうれいんやせし時ふましく僧於
 空下ありては儀乃新めて行極ましくそれい
 河流あふのあつとつそそ花法安極あり同法を

ちふ早魁と入る昌軸とともありは併ふ
わけて懸行でる毎即日に而脚ちふ海わつれ
にらして敷威乃あり古併に准し新仏と地
うし先慈徳寺にまじりてよりそのたより軸に
らり廣隆寺に古併と安並しそとてまらう
色をかしくよりは先徳寺に古併の先と後先と
と先新佛と座先のうし安並したてまらう
に座先揺動して新佛と安並しあまらう
もく古併の坐先のうし安並してとに而の思
坐先堂とまらうとゆらり聖武天皇の廣隆
寺も併法とともして行りしとけり
和天宮とも同法と再興して先ありの心併

日慈師併養法料修理料不等し并附之
村との帝ハ四季此法料毎日の海とともして
修りし三季此ハ長和六年此法料に
は愍即時小平愈とともして法料ハ二季の
八海畫水十二時の修花等とゆらり後修
法とともして修りしとともして法料ハ廣
隆寺の舊法にのせり修りしとともして法料ハ
密教の輪乃靈場とゆらり寺も併七の寺あり
聖寺。二奈公寺。三桂樹寺。四香栴寺。五三樹寺。六
本奈寺。七廣隆寺。この西と本奈と名付り
しり併養天皇四年に其の法皇帝六世の孫
功滿王とては日本天皇とて融通王とてし

大正寺

ト

ともうむて功満とて辱まふゆりけり融通王
 とに秦線法固よりしとに蝥とらひ織と織
 ちめゆまふ慈神天皇乃ゆりしとめてち
 小綿綿の利ありと融通王の子香洞王に
 仁徳天皇を親とてのあまうく秦王香洞王
 ちてまらむ綿織のさぐひ織とてとれとま
 むふ柔と湿ちりしとめて皮膚ふるくしとま
 後ち秋万葉あんならと姓と波陀とつらんと
 の字と波陀やとまやと姓あまらと雄略天皇
 秦酒公綿織と親延ふ直しとてまらむと
 葉のくくくしと姓らと又秦酒公徳の秦成を
 後とてとの廣隆寺合堂のいふとにたか

と通立し彼衣後と織より天かち内なみ
 穀作人より衣後とまらしゆの衣後
 作下より作下より此乃の世倍は給と中
 ちく字於摩也と名解より字於摩也と衣
 為利利因乃美やと時秦の酒と長衣にして
 於摩也れ号と姓や其及推古天皇十二甲
 徳たより美也と感とくち秦より大伽藍
 たり秦の川橋はちみれ命より信て長く
 周蘇始ハ字於摩也と書信とて信と信
 秦れ川橋の秦乃字と川合てち秦と後
 とちよぶぐくち秦とあそぶとあり口
 事ととめり

○五ノ年法

太子四十六乃伊勢丁己推古天皇廿六年此夏四月
月八日小御堂宮又御ひく勝鬘館と傳ふ終
るりそれきりて勅とて終るにふりてありて
とりのて居場とせらと嚴淨庵とに表懸るり時
よりありこれ名僧大徳とありて法圓とらととら
終るり月郷雲宮としくを伺候とてうらひ一層
の嘸乃所進系して法玄の遠祖ふとよぶあに
清涼殿の系あり地あるまうと蛙一丸とりて乃
ふに居て河の網子にぬかりて若狭郡とらとら
法人年月と現あり太子是はまも夫ふありはとら
ありとありら遠慮みせまうとせげとらり也
色とよの化後とすはきとらまうとらとらとら

伊勢法の事ハ太子九条の時八乃降れ海奇
下ト化人のこととにひる鳴蟬のたるとら鳴きこ
むとととあげと漸ハ二十五条と四十六歳と
の伊勢法ありととらり。彼勝鬘館ハ一巻の伊
終るり翌日ハ勝鬘師が吼一系とら方廣院
中とらととの座乃席にりくそれ勝鬘とらとら
名可思法をらと行とととらとてまをとらとら
ありとらひハこれ法則れ大士位とゆくハ陰園の核
とてとらとら病しく女の體とらとら化交とらとら
つらんやとらとらトとらとら別舎法とらとら
きて孝養のたとはし中ハ別所陰宮國友松
玉の史とらとらとらとらとらとらとらとら

けみらひくをたれありやと入るもいれしおま
みくらとく先をまてまのく人洞とあり
終つりあられたるはるのりともありとあり
那の地地金迹の利生火共るれまよひの
てありと本跡とつたれとありの也 慈石

○

大慈大悲奉誓云
他生序列興正法
生身我身大悲母
一祇現三同一身
為度末世法念生
三骨一朝三三三
慈念念生如子
我身救世觀世音
西方教主弥陀尊
片域他缘亦已盡
父母胎生血肉身
過去七佛法輪所
是故方便從西方
宣惠契女大勢至
真如聖實本一躰
還故西方我降去
遺留勝地此廟窟
大業相七德功德地

此下大
師記
大なり也

前文
太子御
大師

一慶奉詣離惡趣 安定往生極樂界
弘法大師の清光文曰 廣海天皇の降り弘仁元年
河内公孫所よりして 廣海と建之 廣海天皇の
と云ふて 廣海天皇乃 廣海と云ふ 廣海天皇
日廿九十六の夜半に一の 廣海あり 廣海天皇乃
内は微妙のおきあり 大般若理趣 廣海と云ふ
よ念して 廣海天皇乃 廣海と云ふ 廣海天皇
あり事 廣海天皇の 廣海天皇乃 廣海天皇
一 廣海天皇の 廣海天皇乃 廣海天皇
光の輪あり その光の中は 微妙なるあり 廣海
ていりく 我身を 救世大慈の 廣海天皇乃 廣海天皇
安養世由かにあり 廣海天皇乃 廣海天皇

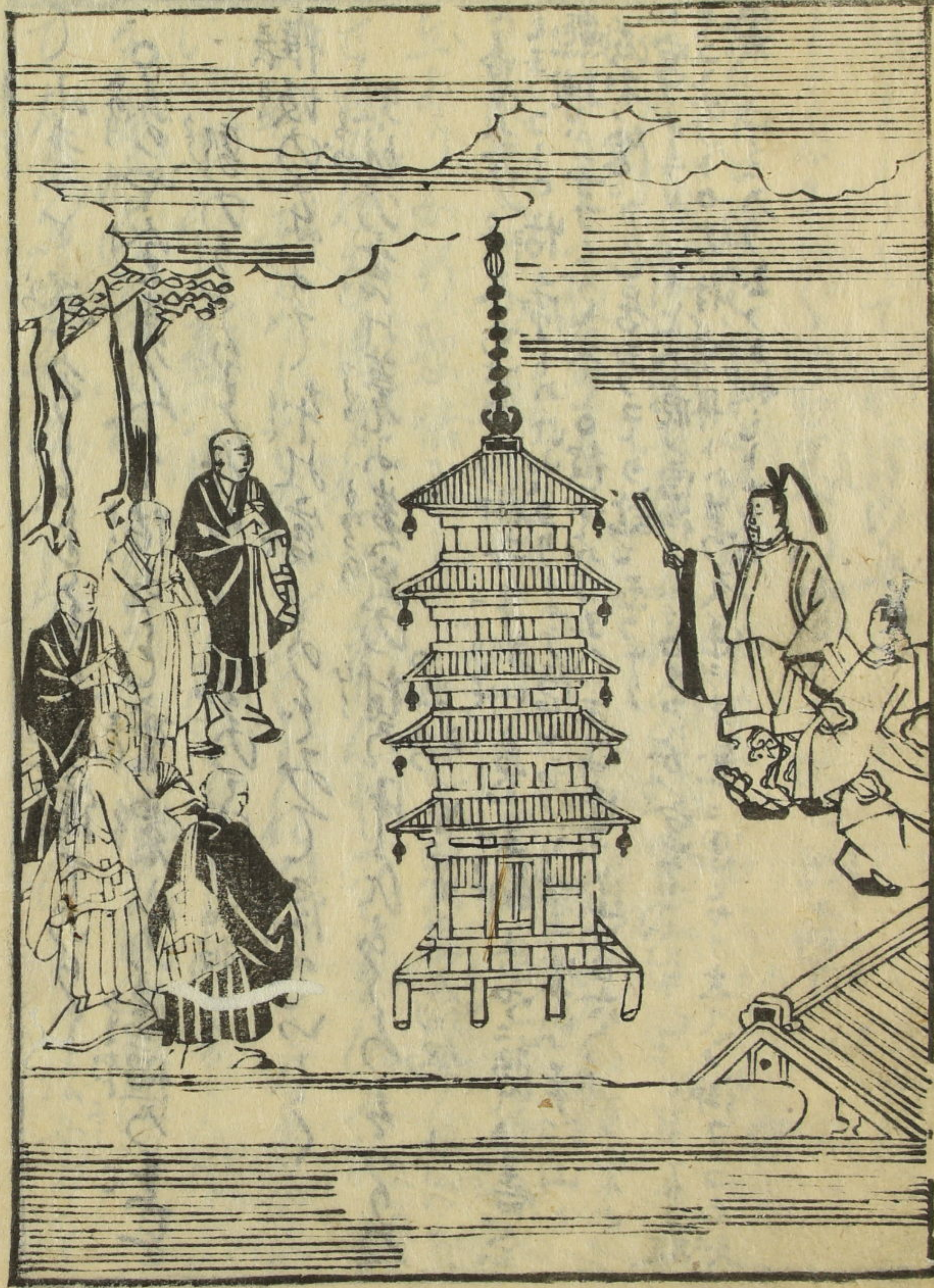
馬場下
野馬基
ナリ白
本國

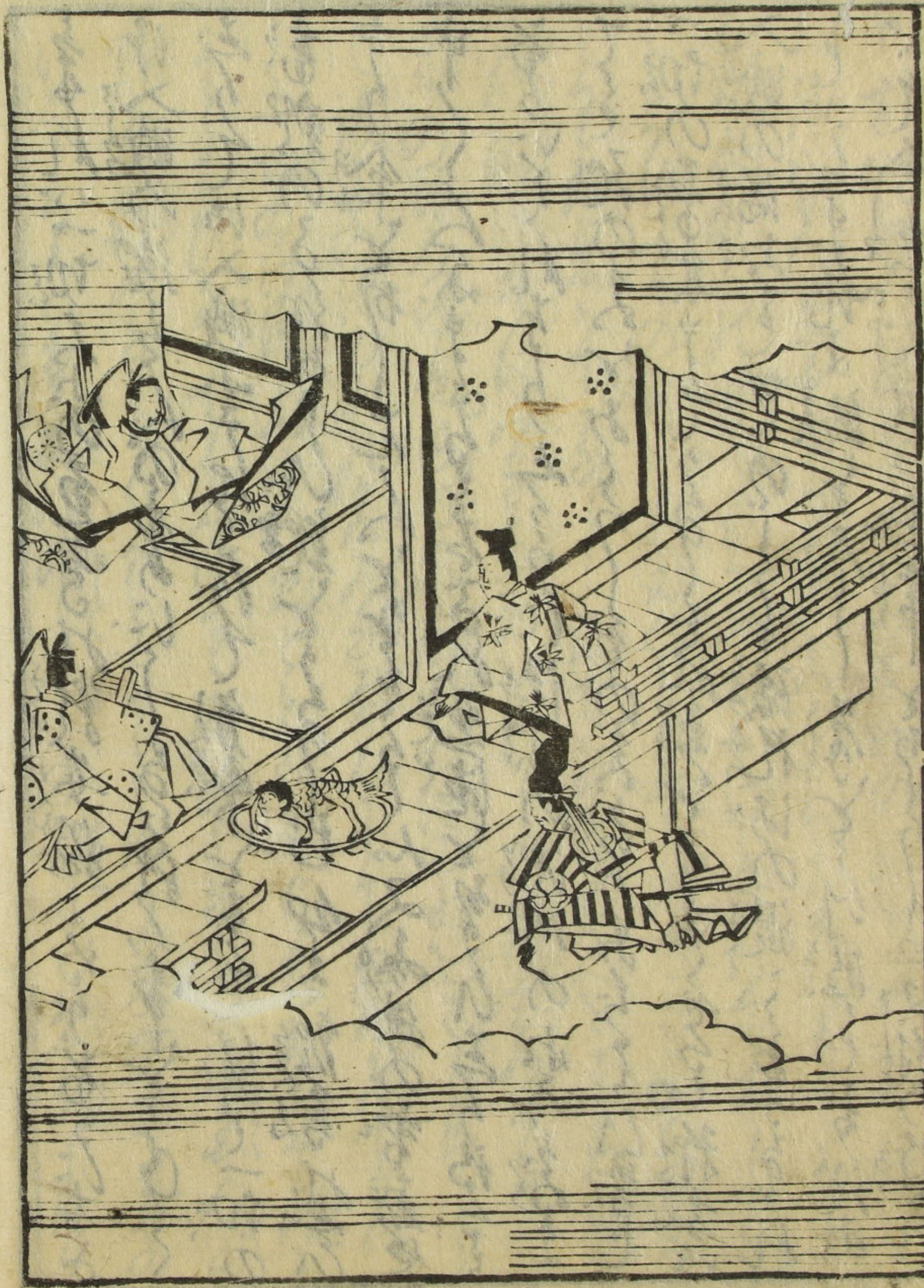
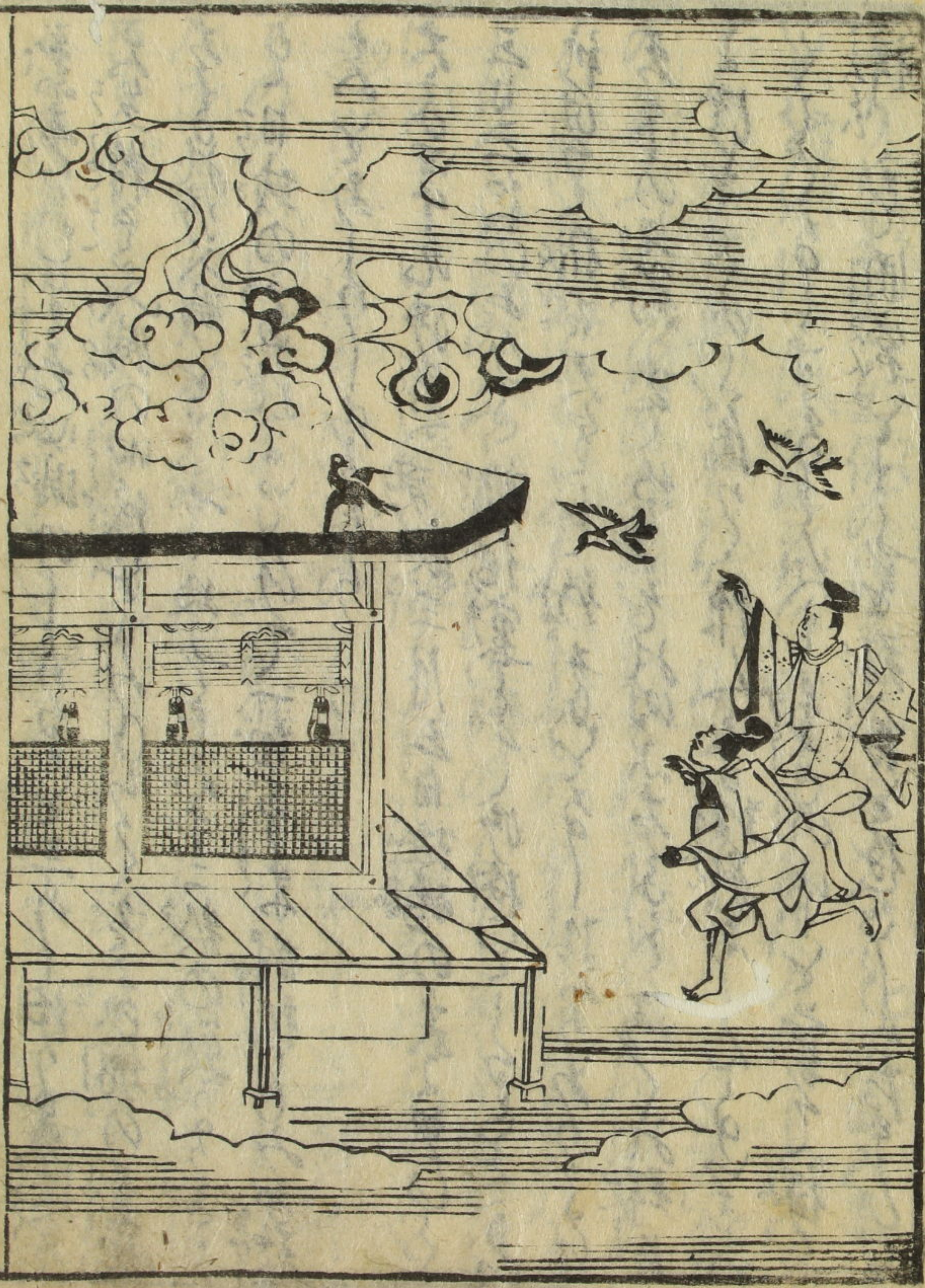
凡人修安樂と捨てし縁ぢり身なる我母后は乞年
 多身も舟如來れ化身業遠や三身後と流てけり
 和成りて老化と日域小神一遷化の年久し之身
 乃位と擲しと青と一廟たうるぬ忽然とて光
 哪の中ふ紅流れ三子の儒と現とぬありき
 此花勝算又ゆれ大業乃要文と漏正見佛
 惟八所去れと教ハ權り迹とる其まよきれ東家
 軍ハ善徳と安樂り成ト具殿よ修業と九
 歌乃深刹ふ思念とけけけけ安樂の意あり
 中よりめり于時弘仁元年庚辰秋八月十九日
 承子初分汝門遍照令剛化之

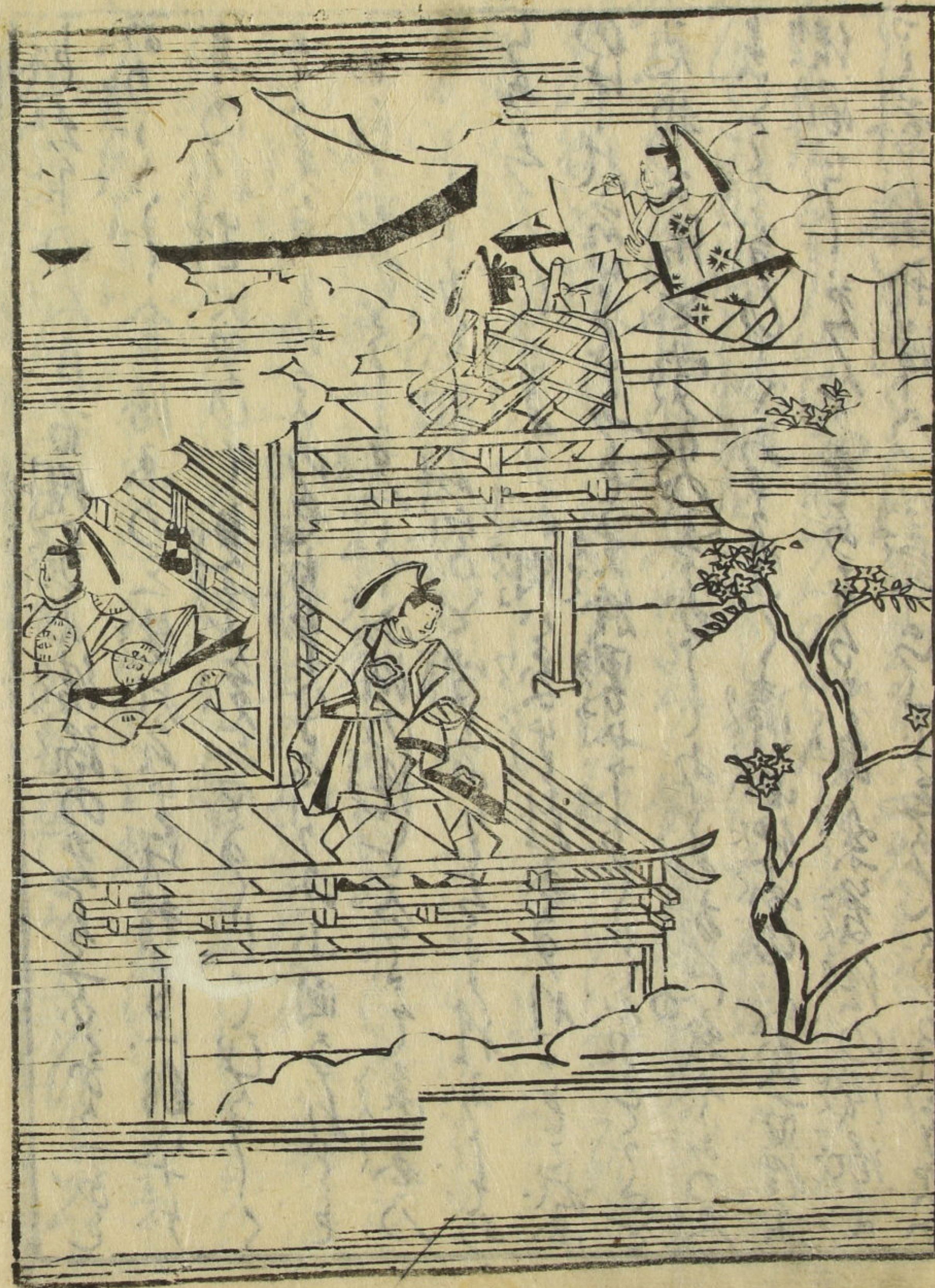
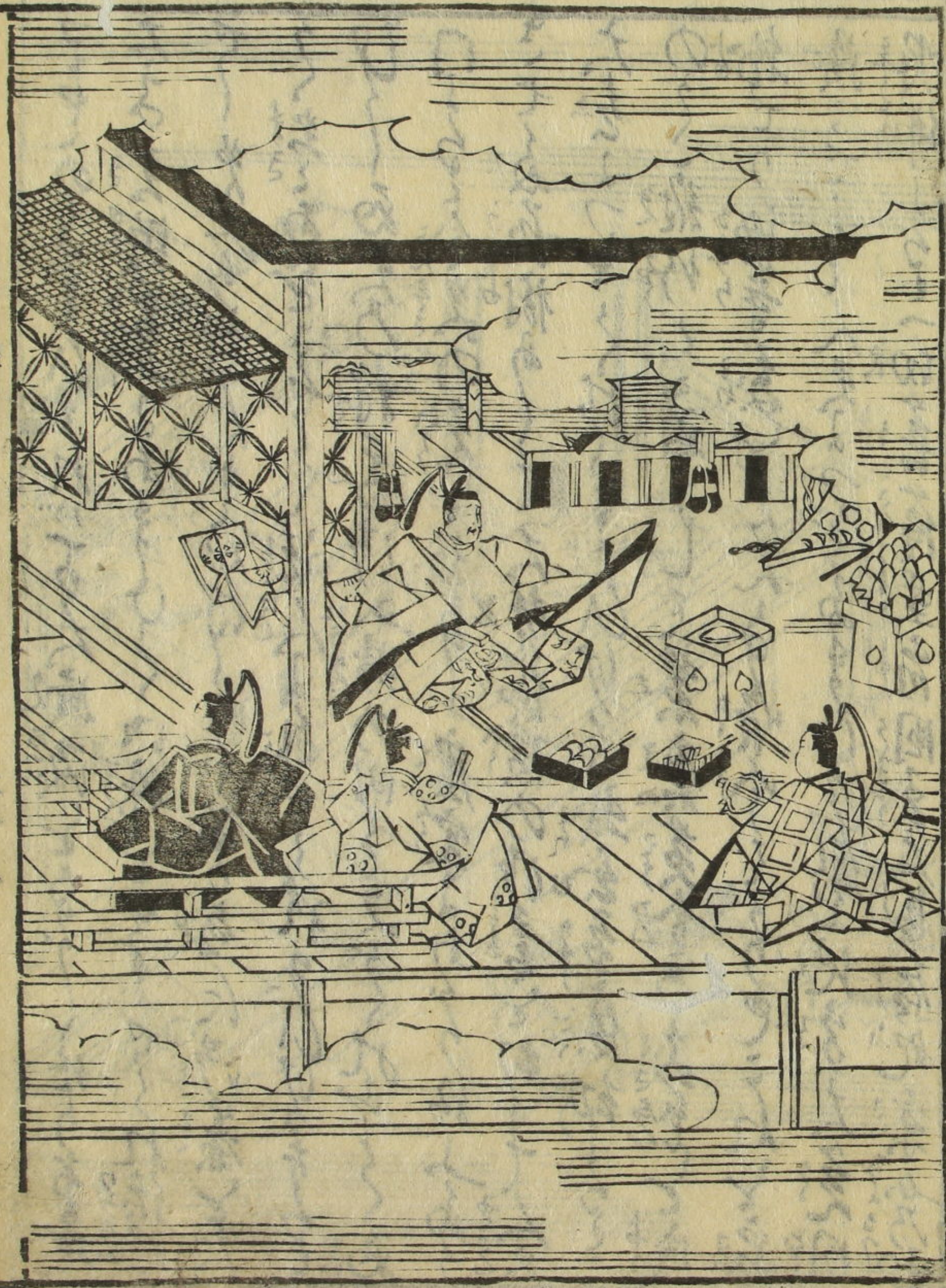


○大子四十八歳推古天皇廿七年己卯年の春
勅とてをきてつと勅勅ふりて大内流石の大伽藍
と先らりたそりりあまのひ田地をたする田
々まひ島をまの園とてまひのひ廿日とて
に山城ふ今の平安城の所を素廣陸ちんし
すすくして塔の心柱とて佛舍利懐蓋と
納その後伽藍乃作養と勅行あまのひ常僧の
僧信十とてあ後代の寺法と命しあまのひ
○そのまをふにつりあまのひ常僧の僧十のあ乃
僧よりとてやと破戒を慚の事とて翌日に撰筆
べしそのまをふひつとけい白素を以て後を子の命と
けて宮位とあめたてまらりそのまに大華上小

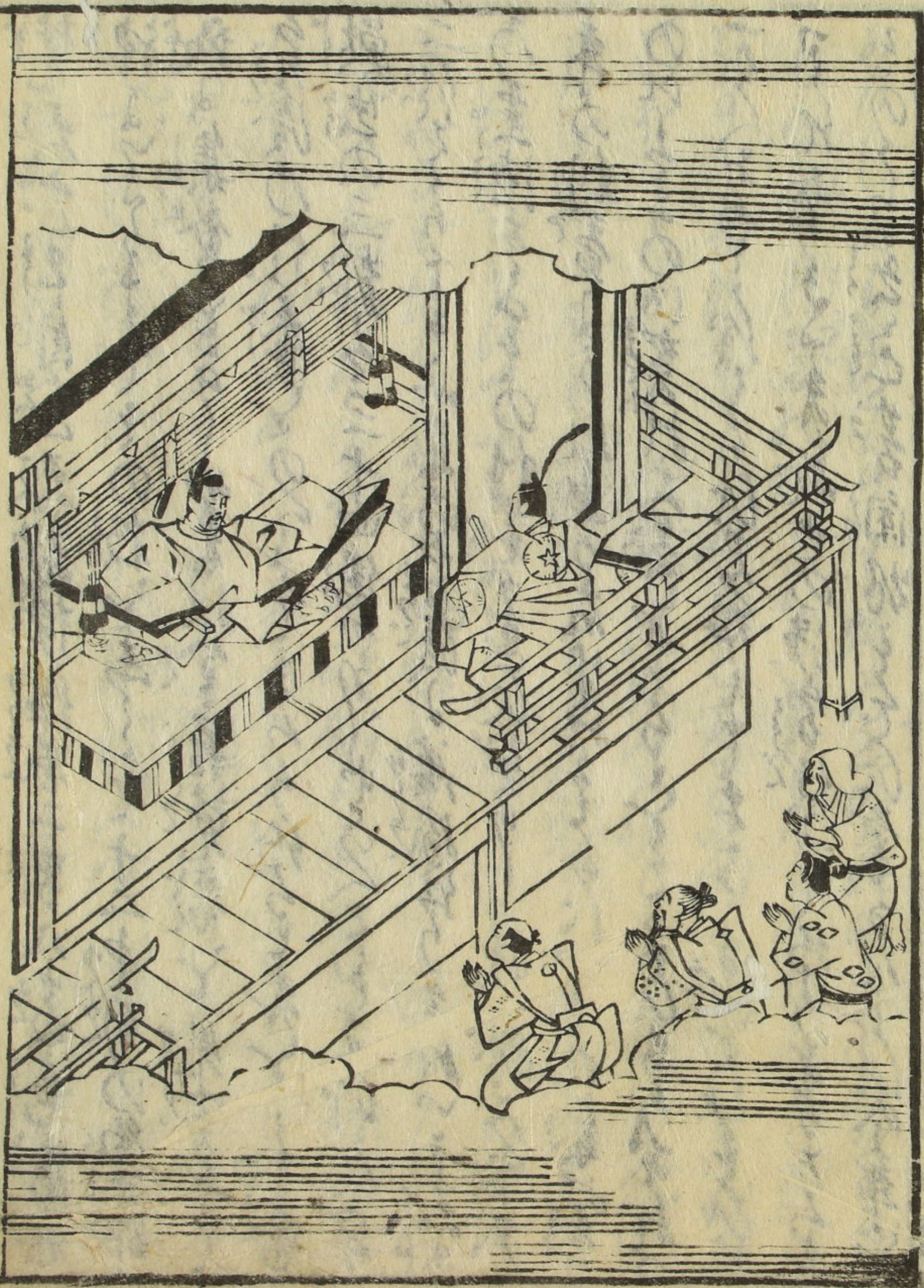
徳位ありふ福地功田六町とあまのひの
近江國志賀郡に清行してたまよつとて乃と
りあ入滅の後ふ十餘年其のらり乃とて遷都あり
て十ヶ年とて神代ありあまのひやまのひ
○廿九代天智天皇は清行を大和國より近江國遷都
ありとて十ヶ年とて遷都又大和を平郡置むの
宮へ移とてりりあまのひのまのひとてあまのひ
子近江志賀郡とて又た素へ遷移ありあまのひ
あまのひ白山傍に清行しあまのひとてあまのひ
まのひのまのひとて素へ遷移ありあまのひ
素へ遷移とて素へ遷移ありあまのひの素へ遷移これ
あり。さてまのひの素へ遷移ありあまのひの素へ遷移







つまやののこすまひとれが万人感涙とあがけたりあり也
 太子まは縣田男はあまきしに神とあまきしれ結縁
 せし先みらむらんやあけりりありありに神とあ
 けしあまきしとあまきし法入はねせし神のひけりあり
 ひけりありあり神のひけりありあり神のひけりあり
 門よりとあまきしのえとありあり神のひけりあり
 させぬぬ樹ありして大梵佛後のひけりありあり
 大まよつぎとれとありあり神のひけりありあり
 のくく難行とありあり神のひけりありあり
 乾せり油等まよとありあり神のひけりありあり
 後よせしとありあり神のひけりありあり
 明佛よりとありあり神のひけりありあり



古子抄歌云

梅葉よの海ゆりさうせむ世のまよふらんと居るるべし

古子抄歌云

うねりもよみまももあつたさるるあつたさるるあつたさるる

古子抄歌云

うねりもよみまももあつたさるるあつたさるるあつたさるる

古子抄歌云

うねりもよみまももあつたさるるあつたさるるあつたさるる

古子抄歌云

うねりもよみまももあつたさるるあつたさるるあつたさるる

古子抄歌云

うねりもよみまももあつたさるるあつたさるるあつたさるる

○

うねりもよみまももあつたさるるあつたさるるあつたさるる

うねりもよみまももあつたさるるあつたさるるあつたさるる

うねりもよみまももあつたさるるあつたさるるあつたさるる

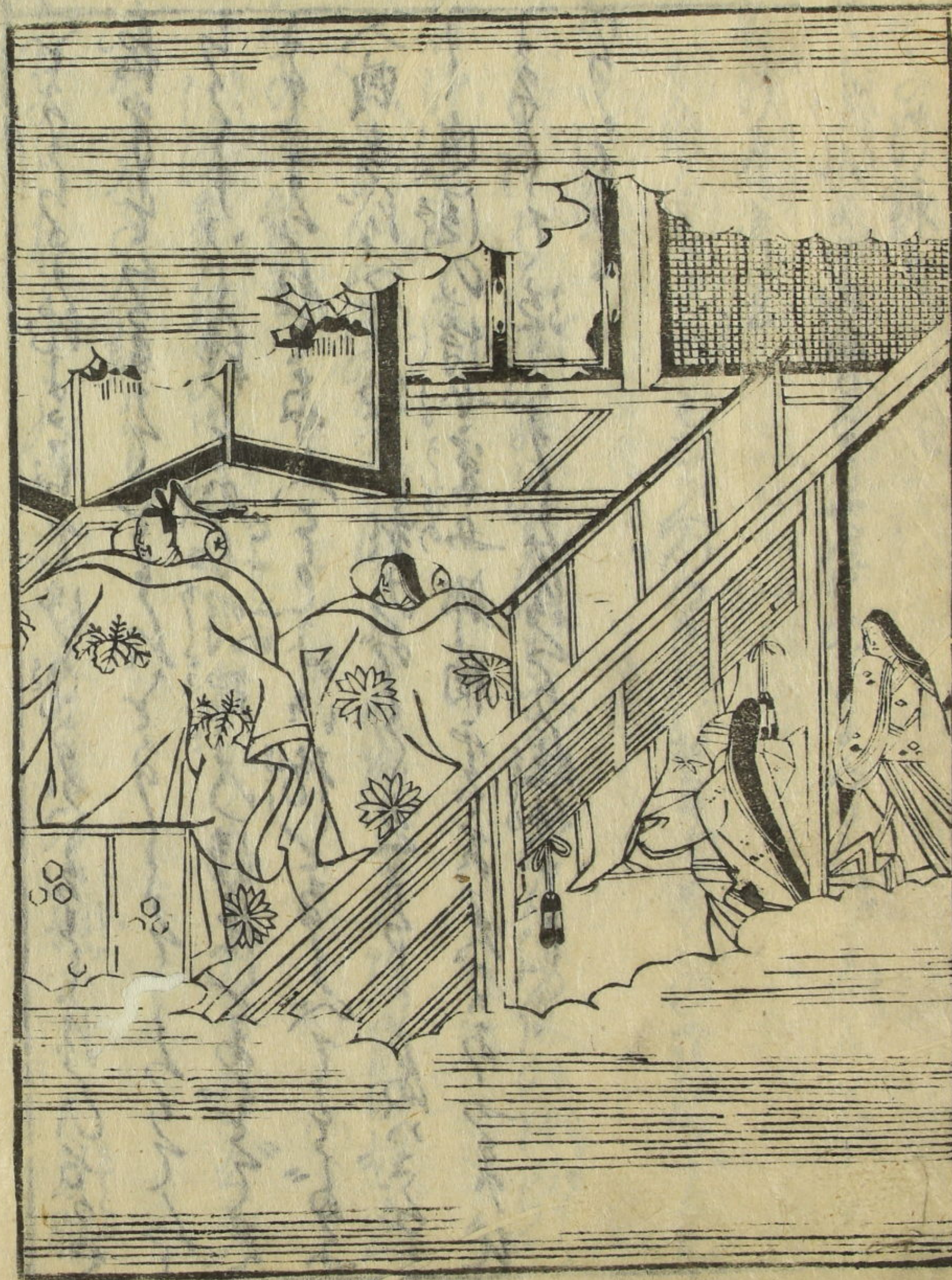
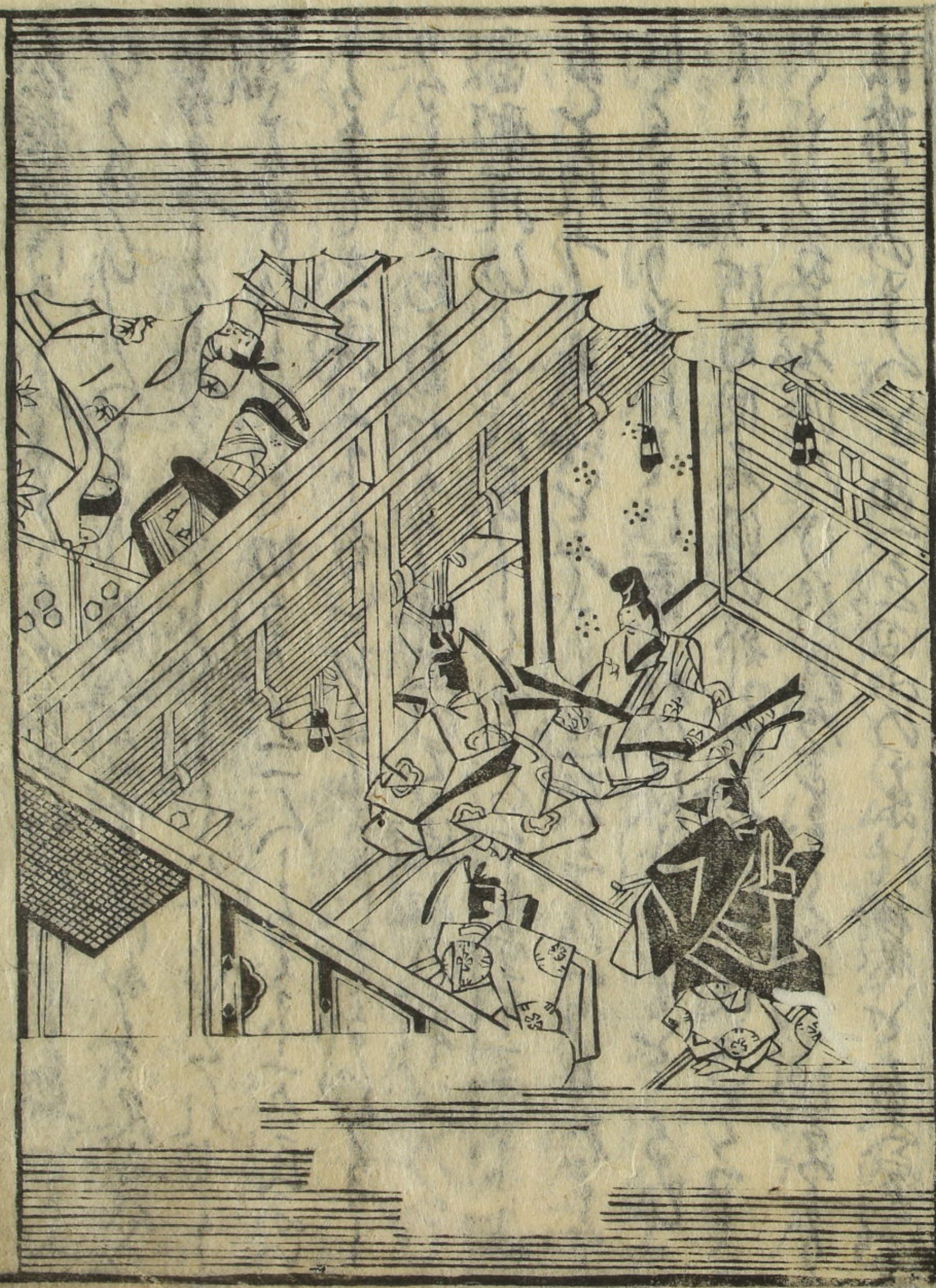
うねりもよみまももあつたさるるあつたさるるあつたさるる

うねりもよみまももあつたさるるあつたさるるあつたさるる

うねりもよみまももあつたさるるあつたさるるあつたさるる

うねりもよみまももあつたさるるあつたさるるあつたさるる

うねりもよみまももあつたさるるあつたさるるあつたさるる



六子傳



六子傳下

六子傳下



六子傳下

六子傳下



年の利生弘満是して日二月廿二日の智に必滅
 至常と志ありてはつらぬ天を去るその時美なりと
 してとて大権の佛菩薩等曰ふ乃中すふ死
 のなりは別と志ありてはつらぬ二月中旬はつらぬ月毎
 是日ありて是日城と大智の別と志ありてはつらぬ
 と人もも滅後二十余年無常の序とふせしめて今客
 梵者といひてやうらみ中二部のうすあをれて是後の修
 養と志の志の志ありて人非うと志ありてあらん去るに
 海我別と志の志の志ありてあらん去るに
 是日救世の利生弘満と志ありてはつらぬ
 してはつらぬと志ありてはつらぬと志あり

聖德太子系圖

欽明天皇第二皇子

人王元代傳中名倉太珠敷天皇

敏達天皇

息長直子王女廣姬為皇后生一男二女

押坂彥人大兄皇子

送登皇女

菟道磯津貝皇女

老女君夫人人生三男一女

難波皇子

春日皇子

栲田皇子

大流皇子

[Faint background text, likely bleed-through from the reverse side]

上宮太子后
推古天皇
御名

菟名子夫人人生二女

太姬皇女

額手姬皇女

豐御食炊屋姬為皇后生二男五女
是推古天皇

菟道貝鮪皇女
嫁於東宮聖德太子

竹田皇子

小墾田皇女
嫁於彥人大兄皇子

鸕鷀守皇女
更名輕守皇女

田眼皇女
嫁於息長足廣額天皇

櫻井弓張皇女

人王武二代 欽明弟四皇子 橘豐日天皇 用明天皇

允穗部 向人為皇后生四男

厩戸皇子 号聖德太子 御息男女元三人

山北背大兄王子

素田姬

老蕪王子

菅手女王

殖栗王

春來女王

近代女王

財平王

磯部女王

茨田王子

三枝王子

三枝末呂子王

馬屋女王

白髮王子

日置王子

片呂女王

高嶋王

遠見王

池上部姫

山影王子

七姫女王

尾張王

三河女王

来目皇子

殖粟皇子

茨田皇子

石寸名為婿

田目皇子

廣子

麻呂子皇子

酢香手姫皇子

欽明天皇子乃十二皇子

人王世三代泊瀬部天皇 崇峻

立大伴糠手連小手子為元

蛸子皇子

錦代皇子 欽明天皇中女 敏達天皇右

人王元代豐御食炊屋姫天皇 推古

厩戸豊聡耳皇子為皇太子仍録攝政以万機悉承天皇

聖德太子御在也禰建立四十六个一寺院

或説多而四十八院有之用捨未定

符神寺 獲河内国 嶽上立之

阿弥陀院 信濃國後名善光寺本名云百濟寺也

四天王寺 攝津國王造岸上立之此寺有四个院

茨田寺 河内国或説不入之

菅田寺 同国或説不入之

太平寺 同国

御廟寺 同国名轉法輪寺或科長寺或石川寺

法隆寺 大和国平群郡班鳩里立之此寺有七名

元真寺 同国此寺有四名

中宮寺 同国俗号藤尼寺又云法真寺

妙安寺 同国

法起寺 同国又池後寺

定林寺 同国

葛城寺 同国

熊野寺 同国平群郡

長琳寺 同国

西安寺 同国

信貴山

牛卧寺 同国

放生寺

同國

比蘇寺

同國

廣隆寺

山城國葛野郡太秦建之此寺有七名

六角堂

同國愛宕郡

石塔寺

近江國蒲生郡或云願成寺

蒲生寺

同國同郡或說不入之

阿弥陀寺

同國

金剛寺

同國

觀音寺

同國

織寺

同國

味摩寺

後云弥滿寺

勝善寺

同國蒲生郡

日向寺

或說不入之

般若寺

同國

大石寺

太和國高市郡

妙教寺

同國

坂田寺

同國云金剛尼寺

豐浦寺

同國高市郡

太子寺

美濃國山背大兄懷胎之時為祈立之

百濟寺

摂津國天王寺東面在之

當麻寺

太子會才蒙太子命之定

久米寺

同以

良作寺

近江國或云長光寺武河細俊造之

尾寺

同云天王寺尾造取之

山田寺

大和國橋立之山、人臣建之

施康蘭寺

法隆寺山立之

野中寺

河內國藤我大臣建之

四天王寺

出羽五秋田城

真福寺

舟屋子孫建之三河國立之

已上太子御在世於日本國中四十六箇寺院一千三

百余僧尼也此中太子御建立八箇所大伽藍者

天王寺

攝津國

法隆寺

大和云班鳩里立之

法真寺

大和云

法起寺

大和云

善提寺

大和云

廣隆寺

山城國太秦建之

定林寺

大和云

妙安寺

大和云

已上八箇所大伽藍也小齋

松花園

寬文六年仲春吉旦

聖德太子傳卷十終

合五卷トスル

